

責任ある調達

中長期ビジョン達成状況を測る指標および2019年度実績

中長期ビジョン達成状況を測る指標	目標値	2019年度実績
①主要サプライヤーにおけるCSR調達ガイドライン調査の平均スコア	①2030年度までに90点	①国内87点
②印刷・加工用紙調達ガイドライン適合証明書取得率	②2030年度までに100%	②92%

「DNPグループCSR調達ガイドライン」遵守状況調査

経済のグローバル化が進み、サプライチェーンが複雑化するにつれて、環境や人権・労働、贈賄などのリスクへの対応が、より強く求められるようになっていきます。DNPは、国内外での事業活動が国際社会や地域社会に及ぼす影響を適切に評価し、改善していくことが重要であると認識し、持続可能なサプライチェーンの実現に取り組んでいます。2006年より、サプライヤーと共同で社会や環境に配慮した責任ある調達の取り組みを進めており、2017年には「DNPグループCSR調達ガイドライン」を制定しました。この時、適用範囲をすべての海外拠点に拡大し、国内外の主要サプライヤーと業務委

託先に対し、ガイドライン遵守を徹底することとしました。

2018年度には当ガイドライン遵守状況の調査を行い、その結果、DNPの基準に達していない取引先企業に対して、事業所や製造現場の実地確認や面談・指導を実施しました。CSRマネジメント等の責任者との対話を通じて、CSRに関わる戦略・方針や考え方、マネジメント体制などを確認し、「人権・労働」「安全衛生」「環境」「製品の安全性と品質」「情報セキュリティ」「公正取引・倫理」「社会貢献」のリスクなどについて指導しました。その結果、2019年度の調査では平均スコアが上がるなど、遵守状況の改善につながりました。

シミュレーションゲームを使った若手社員研修を実施

原材料調達を担う購買部門では、研修を通じて調達関連の基礎知識の習得・向上を図るなど、人材育成を積極的に推進しています。市場のグローバル化にともなうさまざまな社会課題への理解を深めるために、「人権」や「SDGs」について講習を行うとともに、2019年度は新しい試みとして「CSR調達シミュレーションゲーム」も実施しました。このゲームでは、サプライチェーンの中で人権問題が発生した場合の影響を疑似体験できるため、参加者は課題と対応について実践的に学ぶことができました。

DNPは、今後もサプライチェーン全体で環境や社会に配慮した「責任ある調達」を進めていきます。



ゲームを通じさまざまなステークホルダーの立場を疑似体験する参加社員

ニュースリリース・トピックス [リンク](#)